

希土類会議を開催 「産業の針路問う」

マテリアル・トレイディング

レアメタル・レアアース商社のマテリアル・トレイディング・カンパニー(本社〓東京都港区、小滝秀明社長)の主催する「第5回希土類会議シリーズ」が6日、東京・港区の田町カンファレンスセンターで開催された。5回目となる今回は「希土類産業の針路を問う」と題し、希土類にまつわる多様なテーマについて、各界の権威による講演が行われた。産官学の幅広い分野から、関係者ら約100人が参加した。

冒頭あいさつに立った小滝社長〓写真〓は「世間は円安・株高・決算高だが、目の前の楽観論に浮かれることなく、もう一度厳しい目で現実を見つめることが必要。日本独自の資源・技術開発など、努力を重ねる決意を新たにできる機会だと確信している」と述べた。

来賓あいさつには、ネオジム磁石開発者の佐川真人・インターマテリアクス最高技術顧問が登壇、「日本はかつて金などの資源国だったが、掘り尽してしまつた。今の日本にとつては頭脳が資源。考えることで価値が生まれる」とコメントした。

当日行われた講演は次の通り。

▽「南鳥島レアアース泥の開発による日本の成長戦略」加藤泰浩

・東京大学エネルギー・フロンティアセンター教授▽「光学ガラスの歴史と展望」希少元素の果たす役割」青木哲也・オハラ常務取締役▽「今、日本が直面する内外の問題」櫻井よしこ・国家基本問題研究所理事長・ジャーナリスト

